野間大坊所縁の武将印

墓所を奉拝いただき、野間大坊客殿にてお求めください。（1枚300円）

織田信孝（おだのぶたか）

解説

本能寺の変の後、豊臣秀吉が「中国の大返し」を行い、明智光秀を討ったことは有名ですが、実はこの時の明智征伐軍の総大将（名目上）は織田信長の三男 織田信孝が務めています。その織田信孝は信長の跡目争いで有名な「清州会議」で跡目争いに敗れ、その後知多半島美浜町の野間大坊南ノ坊（現在の安養院）にて自害しています。「昔より 主を討つ者（内海） の 野間なれば 報いを待てや 羽柴筑前」は秀吉を恨んだ辞世の句。

織田信孝

織田信孝の墓

源義朝（みなもとのよしとも）

解説

都から東国へ下向した長頼は、在地豪族を組織して勢力を伸ばし、再び都へ戻って下野守に任じられる。東国武士団を率いて保元の乱で戦功を挙げ、左馬頭に任じられて名を挙げるが、三年後の平治の乱で藤原信頼方について敗北し、都を落ち延びる道中尾張国野間で家人に裏切られ謀殺された。

源 義朝

源義朝の墓

鎌田政家（かまた まさいえ）

解説

義朝・政家主従は政家の舅である尾張国野間内海荘の領主・長田忠致の館にたどり着く。だが忠致の裏切りにあい、義朝は風呂場で殺害され、政家は酒を飲まされて騙し討ちに遭い、忠致の子・景致の手にかかって殺された。

妻の清は「せめてお供をお許しくださりませ・・・」と言いつつ、受ぎわに押しのけられた夫の太刀に手を伸ばした清は、いきなりその刃を払って「尼上も、父上もよくごろうじませ。わたくしは平衛門政家の妻でございます」とどめる間のない一瞬のことであった。清はいきなり小袖で刃をかき抱き、その切先を根に当てがって政家のからだの土へ伏し倒れた。「お許しあそばして……」

鎌田政家

政家の妻・清

政家・清の墓所

水野守信（みずのもりのぶ）

解説

水野守信は松平忠吉に仕え、その死後、尾張藩士となって千石を与えられる。妻は河和水野氏。

初め戸田姓を名乗り、のち水野に復した。本家（金兵衛）は刃傷事件により絶家となるが、別家として、宗家に仕えた家（三郎右衛門）と、尾張藩士として存続した家（藤兵衛）がある。

また藩主徳川義直の命により野間大坊住職はこの家系、もしくは守信の妻の実家である河和水野家から出すことになっていた。

水野 守信

水野 守信の墓